

合ナルヤモ知ラス

(長森委員) 會テ輪圖ニモ記載ナキ暗礁ニ衝突シタルトキノ如キハ行爲トアル中ニ包含スルヤ

(箕作委員) 然リ過失トハ云フヲ得ヌ又風波ノ爲ノ如キ抵抗力ニ依テ爲シタルモノニアラサレハ無限責任トハ爲スコトヲ得サルヘシ

○本條ハ質議スルコトニ決ス

○第九百七條

船舶所有者ハ船長ヲ雇入レ又隨意ニ雇止ヲ爲スコトヲ得別ニ契約書ヲ以テ定メタルニ非サレハ解雇ノ爲ノ賠償ノ義務ナキモノトス

○第九百八條

持分所有者タル船長ニシテ解雇セラルトキハ持分ノ價額ヲ要求

商法二ノ二ノ九五六

スルコトヲ得其價額鑑定人ヲ以テ評定セシム可シ

○異議ナシ

○第九百九條

持分所有者ノ間ニ於テ船舶ニ關スル事件ヲ決定スルニハ過半数ヲ以テス可シ但其數ハ各自持分高ノ割合ニ依テ算ス

過半数ノ可決ヲ得サル時ハ半数ノ可決ヲ以テ船舶ノ賣買ヲ請求スルコトヲ得

持分所有者ノ一人新タニ必要ナル支出ニ同意セサル時ハ自己ノ持分ヲ自餘ノ持分所有者ニ譲リ其義務ヲ免ルルコトヲ得但剩餘アルトキハ請求スルコトヲ得

(細川委員) 第二項ノ過半数トハ第一項ノ過半数トハ異ナルモノナルヘシ

(鶴田委員) 否前項ノ過半数ナルヘシ

○第九百十條

航海營業ノ利得ハ總テ費用及損失ヲ扣除シタル後ニ非サレハ船舶所有者之ヲ要求スルコトヲ得ス

○第十一條

船舶持分所有者ハ自餘ノ持分所有者及船舶管理人ノ承諾ナクシテ隨意ニ其持分ヲ賣讓スルコトヲ得

○第九百十二條

持分ノ所有權移轉ノ爲メニ船舶其國籍ノ資格ヲ失ハントスル時ハ自餘ノ持分所有者ハ該持分ヲ自己ノ計算ニ引受ケ又ハ船舶所有ノ能力アル人ニ賣讓センコトヲ要求スルノ權利アリ但其自己ノ計算ニ引受ル場合ニ於テ止テ得サルハ裁判上ニ於テ其價額ヲ確定ス可シ

○異議ナシ

正午十二時中止

午後一時開會

○第三章 船舶債主

○第九百十三條

船舶及其附屬品並ニ未済ノ運送貨ハ假令ヒ第三者ノ現有ニ在ルモ左記ノ要件ニ對シ各項ノ其順序ニ從ヒ義務ヲ負フモノトス

第一 裁判處分上ノ賣却ニ係リ及代金ヲ債主ニ分配スルコトニ係ル裁判其他ノ費用並ニ裁判處分上ノ賣却手續ニ着手シタル以來ニ係ル船舶及附屬品ノ看守保存ノ費用

第二 航海上ノ稅即チ港稅、噸稅、燈臺稅等

第三 入港以來船舶及附屬品ノ保存備藏ノ費用、水先料、船操料、

第四 最後航海中ノ大海失、救援、救拾其他救助ノ費用

第五 最後ノ契約期中ニ係ル船長及船員ノ雇契約上ノ要求

第六 最後ノ航海中船用ノ爲ノニ船長ノ起シタル負債賣却シタル積荷、買入レタル物品及使用シタル勞役ノ辨償

第七 未タ出航セサル船舶ノ賣却、製造、修裝ノ爲ノ又ハ之レカ爲ノ生シタル工賃ノ要求及工賃並ニ將來ノ航海ノ爲ノニシタル修繕修裝備糧ニ由テ生シタル要求ニシテ未タ出航セサルトキ

第八 船舶ノ製造及其修裝ノ爲ニ爲シタル資金又ハ其船舶製造依頼者ヨリ爲シタル代價ノ割拂ニ係ル要求ニシテ未タ其船舶ヲ製造依頼者ニ引渡ササル時

第九 最後ノ航海又ハ最後ノ保險期ニ係ル船舶及其附屬品保險料ノ要求

第十 船長若クハ船員ノ過失ニ出テ積荷若クハ旅客ノ旅荷物ヲ

商法二ノ二ノ九八

引渡サヌ又ハ之ヲ損傷シタル爲ノニ起リタル要求

第十一 船舶ノ衝突其他船長若クハ船員ノ過失ニ出タル損害賠償ノ要求

第十二 貨物登記簿ニ記入シタル要求但其記入日付ノ順序ニ從フ

第十三 右ノ外總テ船舶所有者若クハ船舶買主ニ對スル要求同項内ノ債主ハ別ニ其項ニ明文アルニ非サレハ同一ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ク可シ

○本條ハ第十一項ノ「辨償」ヲ「賠償」ニ第十二項ノ「日付」ヲ「日附」ニ改ム

○第九百十四條

後務ヲ負フ可キ運送貨ハ最後ノ航海ニ係ル運送貨ヲ以テ限トス一航海ノ爲ノ又ハ一航海中ニ生シタル要求ニ付テハ其航海ニ係

ル運送貨ヲ以テ限トス

○異議ナシ

○第九百十五條

無登記ノ要求ニ對スル船舶及運送貨ノ義務ハ其船舶ノ賣讓ノ場
合ニ於テ新所得者ノ名義及計算ニテ且賣主ノ債主ヨリ異議ヲ受
ケス定積港ヨリ發航シ發航後六十日ヲ過キタルトキハ消滅スル
者トス

○異議ナシ

○第九百十六條

船舶ニ係ル要求ノ登記ハ第九百二十一條ニ記載シタル場合ヲ除
クノ外登記シタル船舶ニ限り特別ノ買入證ニ依リテ之ヲ爲
スコトヲ許ス其登記ハ特別ノ質登記簿、船舶登記簿、登記證、
及買入證書中ニ附記ス可シ

商法二ノ二ノ九九

(細川委員) 第九百十三條ノ十二項ニハ質物登記簿トアリ本條ニ
ハ質登記簿トアリ同一原文ナレハ何レカ同一ニ改メタル方可ナリ
(本尾委員) 然リ本條ヲ質物登記簿ト改ム可シ(之ニ決ス)

○第九百十七條

登記ハ船舶登記簿ヲ執ル官廳ニ於テ之ヲ爲シ其登記スル事ハ左
ノ如シ

第一 債主ノ氏名及住所

第二 要求ノ金額及事由

第三 買入證書ノ日附及署名

第四 登記ノ時日

(岡布委員) 時日トアルハ年月日ト時刻モ記スルノ意ナルヤ

(本尾委員) 否時刻ハ記入スルニ及ハサルナリ

(長森委員) 本條ニ登記ハ前條ノ質物登記簿トハ異ナルヘシ何ン

トナレハ前條ニハ其登記シタルコトハ特別ノ質物登記簿云々ニ附
記ス可シトアレハ本條ニ特ニ其場合ヲ示ヌニ及ハサルヘシ
(本尾委員) 否其特別登記簿ノ手續順序ヲ規定シタルモノニシテ
之ト別異ノ登記ニハアラサルナリ

(細川委員) 然ラハ前條ノ登記シタルコトトアル文字不可ナリ

(岡布委員) 就テハ前條但以下ヲ特別質物登記簿ニ記入シ其他船
舶云々ニ付記ス可シト改ムヘシ

(本尾委員) 然ラハ前條ハ但書ヲ削リ

其登記ハ特別ノ質物登記簿ニ記入シ且船舶云々ト修正スヘシ(之ニ決ス)

○本條ハ異議ナシ

○第九百十八條

登記シタルコトニ付テハ證書ヲ下付ス若シ其以前ニ登記シタル

要求アルトキハ併セテ之ヲ記ス可シ此證書ハ裏書ヲ以テ他人ニ
賣讓スルコトヲ得此裏書ハ質物登記簿ニ登記スルニ非サレハ第
三者ニ對シテ無効トス

○異議ナシ

○第九百十九條

登記シタル要求ハ債主ノ承諾書又ハ裁判所ノ判決ニ由テ消滅ス
此場合ニ於テハ登記證書ハ登記官廳ニ還納シ該官廳ハ其消滅ノ
旨ヲ其證書中ニ付記ス可シ

(細川委員) 承諾書トハ如何

(本尾委員) 債主ヨリ登記ヲ取消モ差支ナシト云フ承諾書ナリ

○第九百二十條

各船舶債主ハ其要求ニ相當ノ明證アルトキニ限り裁判所ノ命令
ニ因テ船舶ヲ賣讓スルコトヲ得其法律上ノ特權ハ之レカ爲ノニ

變スルコトナシ但其要求唯タ船舶ノ持分ニ對スルトキハ其持分
船舶所有權全部ノ半額ニ超ユルトキチ除クノ外唯該持分ヲ賣
スルコトヲ得

○第九百二十一條

船舶債主ノ權利ハ製造中ノ船舶ニ對シテモ之ヲ執行スルコトヲ
得製造中ノ船舶ヲ買入スル場合ニ在テハ船舶ノ登記ヲ受ル迄其
登記官廳へ必要ナル届出ヲ爲シ船舶ノ登記ニ代ユ可シ

○第九百二十二條

船舶沈没シ或ハ航海ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ船舶債主ノ權
利ハ其救ヒ得タル部分、尙ホ現存スル部分、若クハ其代價及保
險額ニ移ルモノトス

船舶債主ノ要求權ニ付テハ特ニ其債主ニ於テ保險ヲ受クルコト
ヲ得

○異議ナシ

○第九百二十三條

船舶已ニ出航ノ準備ヲ終リタルトキハ負債ノ爲ノニ之ヲ差押へ
又ハ其乗組員ヲ拘留スルコトヲ得ス但其航海ノ爲ノニ起シタル
負債ニ付テハ此ノ限ニアラス

(岸本委員) 拘留トハ少シク嚴ニ過クルカ如シ故ニ留ムルコトヲ
得ストセハ如何

(關布委員) 拘留ハ抑留ト改ムヘシ(之ニ決ス)

于時三時四十五分閉會

商法編纂會議筆記

第二讀會第三十回 明治二十年四月十五日

欠席 實作委員

午前

○第四章 船長及船員

○第一款 船長

○第九百二十四條

船長其他船舶指揮者ハ其職務ヲ行フニ係ル些少ノ過失ニ付テモ
其實ニ任ス殊ニ積荷ニ係リ及旅客ノ安全及旅荷物ニ係リ責任アリトス

(委員長) 指揮者トハ如何

(本尾委員) 船長ノ代理等ヲ云フ

○第九百二十五條

船長ハ被害ノ事情ヲ預知シタル者ノ指揮ヲ受ケテ受傷シタル行
爲ニ付テハ其指揮シタル者ニ對シテ責任ナキモノトス
船長ハ其特別ナル職務上ノ義務ヲ犯シタルトキハ抗拒ス可カラ
サル威力若クハ偶然ノ事由ニ起因スルニ非サル一切ノ變事ニ付
テ責任アリトス

(周布委員) 特別ノ文字ハ嚴格ニ過クルカ如シ

(本尾委員) 法律ニ於テ訓示セラレタル義務ト云フ意ナリ

(鶴田委員) 第二項ノ事柄ハ前條ノ但書ト爲シ「但天災又ハ偶然
ノ事項ニ起因スルトキハ此限ニ在ラス」トセハ充分ナリ

(委員長) 前條ト比照スルトキハ第二項ハ同一ノ結果ニ歸スルカ
如シ然ルニ之ヲ區別セリ果シテ其理由アルヘキモノナルヤ

○第九百二十六條

船長ハ航海チナス毎ニ其船舶航海ニ堪ユルコト、機裝乘組員、

糧食ノ十分ナルコト積荷ノ配置適當ナルコト並ニ積荷及旅客ノ
過度ナラサルコトニ配慮ス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百二十七條

船長ハ乗組員ヲ編成シ船員ヲ選雇シ船舶ヲ修繕機裝シ及運送契
約ヲ取結フノ權アリ但此事ニ關シ船舶所有者若クハ其代人ノ指
圖ヲ守ル可シ

○本條ハ「ハ之」ヲ復ス

○第九百二十八條

船長ハ航海チナス毎ニ登記證書、航海日記、船員名簿、稅官ノ
納稅受取書、運送契約及積荷ニ係ル書類、旅客名簿ヲ船中ニ備
フ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百二十九條

航海日記ハ船長ノ觀察ヲ以テ一等役員之ヲ掌リ總テ船舶、船員
旅客及積荷ニ關スル狀況及事故ヲ日々記載ス殊ニ左ノ事項ヲ必
要トス

船舶ノ出航地、寄航地、通行地ノ名

風及天氣ノ狀

通航シタル線路及距離

測定シタル經度及緯度

其他時宜ニ依リ左ノ事項ヲモ記載ス可シ

海水ノ深淺及溫度

唧筒ノ水度

水先案内者若クハ挽船ノ雇入

船員會議ノ決議

乗組員ノ變更

一切ノ變時及特別ノ事故並ニ船中ニ於テ爲シタル犯罪及之ニ
加ヘタル罰

○本條ハ各項ニ第一第二等ノ文字ヲ追加ス

○第九百三十條

船長ハ航海ノ始ヨリ終マテ船中ニ在ル可シ又其委任セラレタル
航海ハ遲延且迂回ナク之ヲ始メ之ヲ終ル可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十一條

船長ハ到達港ニ到着ノ後二十四時内ニ航海日記ヲ検査ノ爲メ管
海官署若クハ地方廳ニ差出シ併セテ報告書ヲ差出ス可シ此報告
書ニハ船舶ノ名及噸數、積荷、出航地、出航時日、通航線路、

風及天氣ノ狀ヲ記ス可シ其他死亡及變事若クハ船舶狀況ノ變更
並ニ航海中ノ著シキ事故アレハ之ヲ記ス可シ

急迫ノ時ニ非サレハ此報告書ヲ差出ササル前ニ荷揚ニ着手スル
ヲ許サス

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十二條

避難ノ爲ノ已テ得スシテ入港シタルトキハ船長遲滯ナク其港ノ
管海官署又ハ地方廳ニ其原因ト事情トヲ供述ス可シ管海官署又
ハ地方廳ハ之ヲ筆記シ其筆記書ノ公屬ヲ船舶所有者又請求アレ
ハ他ノ關係者ニ其者ノ費用ヲ以テ下付ス可シ

(細川委員) 供述スルハ前條ノ報告書ニ代用スルナルヘシ

(本尾委員) 然リ

○第九百三十三條

航海中危難ノ起リタルトキハ船長預メ役員及重立タル船員ト協
議シタル後ニ非サレハ如何ナル事情アリト雖モ其船ヲ去ルコト
ヲ得ス但此場合ニ於テモ可成人員、書類、貨物及船舶ヲ救済ス
ルノ責アルモノトス

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十四條

難破其他船舶ヲ放棄セサルヲ得サル變事アルニ方リテハ船長ハ
猶豫ナク其原因ト事情トニ付テ最寄ノ地方廳ニ報告書ヲ差出ス
可シ該地方廳ハ時宜ニ依リ他ノ船員若クハ旅客ヲ審問スル等總
テ該報告書ノ認定又ハ補闕ノ爲メ必要ナル調査ヲ爲ス可シ

(周布委員) 管海官署ノ^文字ナキヲ以テ見レハ地方廳ニ限ルモノト

解スヘキヤ

(本尾委員) 管海官署モ記シタルモノト同一ニ見ルヘシ但此事ハ

質問スヘシ

○第九百三十五條

船長ハ航海中危急ノ場合ニ於テ船員會議ノ決議ヲ以テ何人ノ所有タルヲ問ハス船中ニ存スル食料ヲ船中諸人ノ需用ニ充ツルコトヲ得但シ其食料ノ代價ヲ償フ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十六條

船長ハ航海中他ニ支辨ノ方法ナク且船舶所有者若クハ其代人其場ニ在ラサルトキハ乗組役員ト協議シ且管海官署若クハ地方廳ノ許可ヲ得タル後船舶ノ修繕其他必要ナル需用ノ爲メニ船舶ヲ引當トシテ負債ヲ起シ又ハ積荷ノ全部若クハ一部ヲ賣入レシ又ハ賣却スルコトヲ得但シ積荷ヲ賣入レ若クハ賣却シタルトキハ其陸揚ノ地及時ノ相場ヲ以テ荷主ニ賠償ス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十七條

船長ハ航海ヲ始メ及航海ヲ終ハル毎ニ又請求アルトキハ臨時ニ船舶所有者ニ報告ヲ爲シ及計算ヲ立ツ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百三十八條

船長及船員ハ船舶所有者ノ承諾ナク自己ノ計算ヲ以テ貨物ヲ船中ニ積入ル可カラズ之ヲ犯ストキハ船舶所有者ハ其船費ニ利得ヲ併セテ自己ノ有ニ歸スルコトヲ得

○本條ハ異議ナシ

○第二款 船費

○第九百三十九條

船員ノ雇入及雇止ヲ爲ストキハ其雇入地ノ管海官署若クハ其他

之三輩ル官署ニ於テ船員名簿ニ登記シ若クハ船員名簿中ヨリ刪
除ス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十條

船員雇入ノ約束 船員名簿ノ文面、特別ノ契約又ハ商ヒノ慣習
ニ據テ之ヲ定ム但非常ノ勞務ノ爲メニ特別ノ報酬ヲ要求スルコ
トヲ得ス

(委員長) 船員名簿ニハ氏名ノ外記載ナカルヘシ

(本尾委員) 否契約書ノ文面迄記入スルナリ

○第九百四十一條

十分ノ理由ナクシテ雇止トナル船員ハ其既ニ受取ル可キ給料全
額ノ外賠償トシテ其雇止ノ爲メニ失フタル給料ノ半額ヲ受ルノ
權アリ但一ヶ月分ノ給料金額ヲ超過スルコトヲ得ス

政府ノ處分若クハ船舶差留ノ命令ニ依リ航海ヲ止メ若クハ停メ
又ハ減縮シタルハ雇止ノ十分ナル理由ト看做ス可シ

(細川委員) 第九百七條ノ解雇ヲ「解止ヲ爲ス」ニ改ムヘシ

○第九百四十二條

航海中十分ノ理由ナクシテ雇止トナリタル船員ハ無賃ニテ其出
航シタル港ニ還送セララルコトヲ要求スルノ權アリ

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十三條

一航海ノ爲メニ雇入タル場合ニ於テ其航海ヲ延長シタルトキハ
船員ハ相當ノ増給ヲ受クルノ權アリ

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十四條

船舶未タ航海ヲ了ラサル前ニ掠奪セラレ又ハ沈没シタルトキハ

船員ハ給料ヲ要求スルノ權ヲ失フ但船員ノ勞力ヲ以テ船舶若クハ積荷ノ内救済シタルモノヲ以テ給料ニ充ルハ此限ニ在ラス

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十五條

船員ハ破壞ノ船舶若クハ積荷ヲ救済スルコトニ從事シタル日數ノ給料ヲ併セテ要求スルコトヲ得

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十六條

就役後疾病ニ罹リ或ハ創傷ヲ被リタル船員ハ三ヶ月以内ニ治療看護ヲ受クルノ權ヲ有ス但其疾病創傷自己ノ過失ニ出タルトキハ此限ニ在ラス

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十七條

船員就役後死去シタルトキハ死去シタル日迄ノ給料又船舶防禦ノ爲メニ死シタルトキハ其全航海ニ係ル給料其相續人ニ歸ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十八條

船員就役ノ後ハ船長若クハ其代人ノ許可ヲ得ヌシテ船舶ヲ去ルコトヲ得ヌ脱走シタル船員ハ其地方廳ニ依頼シ牽制ヲ以テ之ヲ役務ニ復セシムルコトヲ得若シ復セサルトキハ其受取ル可キ給料及其船中ニ殘シタル物品ヲ要求スルノ權ヲ失フ

○本條ハ異議ナシ

○第九百四十九條

本款ノ規定ハ船長ニ適用ス但別ニ之ト異ナルノ規定アリ若クハ事ノ性質上適用ス可カラサルモノハ此限ニ在ラス

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十條

船員ノ義務背犯殊ニ不從順及抵抗ハ船長兼戒權ヲ以テ之ヲ制止
ス其罰ス可キ罪狀アルモノハ幽囚若クハ科金ニ處ス

正午第十二時中止

午後開會

○第五章 運漕契約

○第一款 船舶借入契約

○第九百五十一條

一 航海若クハ數航海ノ爲ノニ船舶ノ全部又ハ一部ヲ借切ルコト
ニ係ル契約ハ之ヲ書面ニ認メ契約者各其一通ヲ有ス可シ
運漕引受人ハ航海ヲ始ムル前又ハ航海中已チ得サルトキハ自己
ノ計算ヲ以テ契約書中ニ記スルモノニ非サル船舶ニ積荷ヲ移ス
ノ權ヲ有ス但運漕委托人ニ損害ヲ加フ可カラス

(本尾委員) 運送引受人ト修正セシカ後ニ至リ不都合ヲ發見シ復
タ貨主ト爲シタルカ如ク覺ユルナリ

○第九百五十二條

船舶ノ場所、碇泊ノ定期及碇泊ノ過期並ニ碇泊ノ過期ノ賠償ハ
別ニ契約書中ニ定ムル所ナキニ於テハ其地ノ慣習ニ依テ之ヲ定
ム

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十三條

碇泊定期及碇泊過期ヲ算スルニハ日曜日及一般ノ休日並ニ風雨
其他天然若クハ法律上ノ障礙ノ爲ノニ荷物ノ積卸ヲ妨ケラレタ
ル日ヲ除ク可シ

(細川委員) 「一般」ハ「公認」ト改ムヘシ(之ニ決ス)

○第九百五十四條

月ヲ以テ定メ其他時限ヲ以テ定メタル運漕賃ハ別ニ反對ノ約定
アルニ非サレハ其船ノ出航シタル日ヨリ起算ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十五條

航海ヲ始ムル前ニ到達港ト貿易若クハ交通ヲ禁セラレタルトキ
ハ其契約ハ解除ニ屬シ雙方共ニ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

航海中右ノ禁ニ依リ其船舶還航セサルヲ得サルトキハ航海ノ往
返ヲ併セテ其船舶ヲ借入レタルトキト雖モ唯往路ノミノ運漕賃
ヲ支拂フ可シ

前二項ノ場合ニ於テハ運漕委托人其積卸ノ費用ヲ擔當ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十六條

封港若クハ其他ノ方法ニ因リ到達港閉鎖セラレルトキハ船長ハ

商法二ノ二ノ二〇

別ニ指揮ヲ受ケサルニ於テハ閉鎖セラレサル最寄ノ港ニ入航ス
可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十七條

抗拒ス可カラサル威力ノ爲メ航海ヲ始ムルコト又ハ繼續スルコ
トヲ一時阻遮セラル、トキハ其契約變スルコトナク又互ニ賠償
スルノ義務ナシ但運漕委托人ハ自己ノ計算ヲ以テ積荷ヲ處分ス
ルノ權アリトス

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十八條

荷積ニ着手スル前ニ在テハ運漕委托人其契約上ノ運漕賃半額ヲ
支拂ヒ契約ヲ解クコトヲ得但其積荷ヲ渡ササルトキハ契約ヲ解
キタルモノト看做ス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百五十九條

積荷沒收或ハ差押ヘニ漕フモ運漕委托人ハ契約上定ノタル運漕費ノ金額ヲ支拂フノ義務ヲ免レヌ

○第九百六十條

他ノ積荷ノ爲ノニ收入シタル額及航海ヲ止メタルカ爲ノニ費用ノ減少シタル^額ハ第九百六十九條ノ場合ヲ除クノ外船長ノ受ク可キ運漕費中ニ之ヲ算入スルコトヲ得ス

(委員長) 充ツルコトヲ得ストアルハ甚タ解シ難シ寧ロ原案ノ算入スルコトナシノ方便レルカ如シ

(細川委員) 然リ算入スルコトヲ得スト云フ方可ナリ(之ニ決ス)

○第九百六十一條

船長ハ運漕委托人契約ヲ解クニ非サレハ契約シタル積荷ノ全量

ヲ積入レサルモ航海ヲナスノ權利及義務アリ但之カ爲ノニ被リタル損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

○本條ハ異議ナシ

○第九百六十二條

船舶借入契約ノ原則ハ貨物運輸ニ非ラサル目的ヲ以テ航海ヲナス爲ノニ船舶ヲ借入レタル時ニモ適用ス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第二款 運漕狀

○第九百六十三條

運漕狀ハ運漕ノ爲メ船長ニ交付シタル積荷ノ受取證ニシテ左ノ事項ヲ記載ス可シ

第一 船舶ノ名及國籍

第二 船長ノ氏名

第三 運漕委托人ノ氏名及荷物受取人

第四 積入港及到達港

第五 貨物ノ種類、積量若クハ重量、荷物ノ數

第六 記號番號並ニ包裝ノ方法

第七 運漕費ニ關スル約條

第八 交付シタル運漕狀ノ數

運漕狀ハ請求ニ應シ幾通モ之ヲ交付ス可シ其中ノ一通ニハ運漕
委托人署名シ其他ハ船長之ニ署名ス

運漕狀ハ名宛人ヲ記シ又ハ指圖書クハ無記名タルコトヲ得

(委員長) 第一云々ト爲スヲ可トス(之ニ決ス)

○第九百六十四條

運漕狀ハ積荷ヲ終リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ交付ス可シ
積荷ノ關稅受取書及關稅明細書ヲ船長ニ交付スルモ亦同時内ニ

於テス可シ

○本條ハ異議ナシ

○第六百六十五條

成規ニ從ヒ作りタル運漕狀ハ關係者間及關係者ト保險者トノ間
ニ充分ノ證據トナル但反對證ヲ舉クルコトヲ許ス

船長ノ包裝ノ備若クハ閉蓋シタル用器ノ備外部ニ破損ナク引渡
サレタル積荷ノ種類及積量ニ付テハ明約ヲ以テ其責任ヲ引受ケ
タルニ非サレハ責任ナシ

紛失又ハ破損ノ責任ハ第五百五十二條ニ記載シタル事情ノ外火
災、盜難其他過失ニ出テサル變故ノ爲メニ之ヲ免ルルモノトス
船長ハ契約ヲ以テ自己ノ過失ニ出ツル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百六十六條

船長ハ到達港ニ於テ運漕賃、別途手数料海失費、其他立替ヘタル費用ノ支拂及受取證ト引替ヘニ其運漕狀ノ所持人ニ積荷ヲ引渡スノ義務アリ但其所持人數人アリテ申出タルトキハ裁判所又ハ安全ノ方法ヲ以テ他ノ場所ニ預ケ置ク可シ

(本尾委員) 但書ハ「正當ノ所持人數人アリテ荷物受取ヲ申立タル」ト改ムヘシ(之ニ決ス)

○第三款 運漕賃

○第九百六十七條

運漕賃ノ額ハ契約ニ據リ又ハ時ノ習用額ニ從ヒ之ヲ定メ船舶借入契約若クハ運漕狀ヲ以テ之ヲ證明ス

荷物世話料ノ如キ船長ノ別途謝金或ハ海失費其他別途ノ費用ハ契約上ノ許諾又ハ商ヒノ慣習ニ因ルニ非サレハ之ヲ支拂フヲ須ヒス

(細川委員) 世話料ノ如キト云フハ分明ナラサルヲ以テ「船長ノ如途手数料、荷物世話料、海失費」ト改メ「須ヒス」ヲ「要セス」トセハ如何(之ニ決ス)

(橋田委員) 海失費ノ事ヲ契約ニ因テ支拂ハサルヲ得ルト爲スハ種當ナラサルナリ

(本尾委員) 本條ハ契約又ハ慣習ナケレハ船長ニ於テ海失費ヲ立替フヲ要セサルヲ云フナリ

(細川委員) 第九百九十五條ニ於テ船舶ノミ擔當スル海失費ノ如キハ契約又ハ慣習アルニアラサレハ荷主ニ於テ擔當スルニ及ハサルコトヲ本條第二項ニ定ムルナルヘシ

(岡布委員) 然リ故ニ大海失ニアラス特別ノ海失費ト解スレハ敢テ抵觸スルコトナカルヘシ

(本尾委員) 荷主ニ於テ擔當スルニ及ハサル海失ヲ云フモノノ如

ク解スル方適當ナルカ如シ

(委員長) 原文ニ依レハ慣習ニ因テノミ之ヲ計算スルコトヲ得ト爲ヌチ適當トヌ故ニ之ヲ右ノ如ク改ムヘシ(之ニ決ス)

○第九百六十八條

船長ノ陳告シタル船舶ノ積載力其實ニ超タルトキハ船長ハ之カ爲ノニ運漕委托人ニ加ヘタル損害ヲ償フノ義務アリ且運漕費ヲ相當ニ低減ス可シ但其陳造官ノ測量證書面ト伏合シ又ハ其差四十分一以下ナルトキハ此限ニ在ラス

(長森委員) 荷主ハ前款ト同シク「運送委托人」ト改ムルヲ可トス(之ニ決ス)

○第九百六十九條

運漕委托人ハ借入契約ノ場合ニ於テ契約上定メタル積荷ノ全量ヲ積入レサルモ運漕費ノ全額ヲ支拂フノ義務アリ過量ノ積荷ニ

付テハ相當ノ運漕費ヲ支拂フ可シ

船長ハ運漕委托人ノ承諾ヲ經テ他ノ積荷ヲ以テ不足ノ積荷ヲ補フコトヲ得但其運漕費ハ運漕委托人ニ歸ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十條

各個ノ積荷ハ航海ヲ始ムル前ニハ運漕費ノ半額及之カ爲メ生シタル費用ヲ支辨シテ運漕委託人之ヲ取戻スコトヲ得已ニ航海ヲ始メタル後取戻ス積荷ニ在テハ運漕費ノ全額及之カ爲メニ生シタル費用ヲ支辨ス可シ

右兩場合ニ於テモ船長ハ自己ノ過失ニ起因スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

(周布委員) 「於テモ」「モ」ハ刪ルヲ可トヌ(之ニ決ス)

○第九百七十一條

陳告ヲ爲サス若クハ其實ニ非サル陳告ヲ爲シテ積入タル荷物ハ船長之ヲ歸揚シ又ハ海中ニ投シ又ハ最モ費キ運漕賃チ之ニ付スルコトヲ得

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十二條

船舶航海ニ堪ヘサルトキ或ハ契約書面ニ記シタル國籍チ有セス若クハ之ヲ失フタルトキハ運漕委託人其契約ヲ解クコトヲ得又船長ハ運漕賃要求ノ權チ失ヒ且之カ爲ノ運漕委託人ニ加ヘタル損失ヲ償フ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十三條

航海中船舶ノ修復チ必要トスルトキハ運漕委託人ハ運漕賃ノ全額チ支辨シ契約ヲ解クコトヲ得

相當ノ期限内ニ船舶ヲ修復スルヲ得サルトキハ船長其他ノ船舶チ以テ之ニ代ヘサル時ニ限り運漕委託人ハ唯其地迄ノ運送賃チ拂フ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十四條

第九百五十七條ノ場合ニ於テハ大海失ノ原則ニ從ヒ碇泊ノ費用ヲ定ム

○本條ハ「大海失」チ「共同海失」ト改ム

○第九百七十五條

航海前若クハ航海中若クハ到達港ニ於テ運漕委託人若クハ船長ノ起シタル滞留ノ費用ハ其滞留チ起シタル者之ヲ負擔シ且之カ爲ノニ生シタル損失ヲ償フ可シ

○第九百七十六條

運漕委托人ノ過失或ハ偶事或ハ自然ノ品質ノ爲メ損失シタル貨物及第九百三十六條ニ從ヒ賣却シタル貨物又ハ共同ノ危険ヲ免レン爲メ海中ニ投シタル貨物ニ付テハ運漕賃ノ金額ヲ支拂フ可シ但海中ニ投シタル場合ニ於テハ右運漕賃ヲ以テ共擔金ノ割前ヲ支拂フ可シ

(本尾委員) 但書ノ場合ハ船長ニ於テ運賃金額ヲ受取リタルトキハ其受取リタル金額中ヨリ共擔金ノ割合ヲ出ヌヘシト云フニ在リ(細川委員) 然リ就テハ原文ニモナキヲ以テ「割合」ノ二字ヲ削ルヘシ(之ニ決ス)

(岡布委員) 然ルトキハ「支拂フヘシ」ハ「負擔スヘシ」ト爲ヌヲ可トス(之ニ決ス)

○第九百七十七條

船舶難破又ハ坐礁又ハ奪掠ニ遭タルカ爲メニ損失シタル貨物ニ

付テハ運漕賃ヲ支拂フコトヲ要セス且特約ナキニ於テハ前拂ノ運漕賃ヲ償還ス可シ

救助取シ若クハ買戻シタル貨物ニ付テハ之ヲ到達港ニ運漕スルニ非サレハ難破又ハ奪掠ノ地迄ノ運送賃ヲ支拂フ可シ但船舶ノ半價及運漕賃ノ半額迄ハ買戻シノ爲メニ供ヌ可シ

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十八條

荷物受取人運漕賃ヲ支拂ハス或ハ積荷ノ賣却ヲ以テ運漕賃ヲ得サルトキハ運送委托人其實ニ任ヌ

○本條ハ異議ナシ

○第九百七十九條

船長ハ運漕品ヲ引渡シタル後十四日間ハ假令ヒ其荷物受取人其間ニ破産シタルトキト雖モ運漕賃其他ノ要求ノ爲メニ其運漕品

ニ付テ先取權ヲ有ス但其運漕品既ニ第三者ノ現有ニ移リタルト
キハ此限ニ在ラス

○本條ハ異議ナシ

○第九百八十條

運漕費ノ減額ハ運漕品ノ損失、事情ノ變更及其他ノ理由アルカ
爲ノニ之ヲ要求スルコトヲ得ス

○本條ハ異議ナシ

○第九百八十一條

船長其運漕品ノ價額損失ニ付テ責任アルトキニ限り運漕委託人
ハ運漕品ヲ船長ニ放與シテ運漕費ニ代ユルコトヲ得

○本條ハ異議ナシ

○第九百八十二條

前條ノ規定ハ旅客運漕殊ニ乗客貨及旅荷物ニモ亦適用ス可シ

○本條ハ異議ナシ

于時午後第三時

商法編纂會議錄記

第二讀會第三十一回 明治二十年四月十八日

- 欠席 長森委員
- 全 實作委員
- 全 關布委員
- 全 岸本委員

○午前

○第六章 海失

○第九百八十三條

共同ノ危險ヲ免レン爲ノ直接ト間接トヲ問ハス故ラニ船舶又ハ
積荷ニ加ヘタル非常ノ損失非常ノ費用ハ總テ之ヲ共同海失トス

○異議ナシ

○第九百八十四條

共同海失ニ屬スルモノ殊ニ左ノ如シ

第一 船舶又ハ積荷ノ危険又ハ其既ニ遭遇シタル危険ノ有害ナル結果ヲ避ケン爲メ避難港ニ入港スルコト

第二 船舶ヲ輕クスル爲メ積荷ヲ海中ニ投シ若クハ抛揚スルコト之ニ由テ船舶或ハ積荷ニ加ヘタル損害

第三 船舶ノ沈没又ハ奪掠ヲ避クル爲メニシタル故意ノ坐礁

第四 船舶及積荷ノ買戻費用並ニ人質ノ給養及贖解ノ費用

第五 共同大海失ノ費用ヲ辦セン爲メ第九百三十六條ニ從ヒ調達シタル金額利息若クハ保險ヲ受ケタル金額ノ保險料又ハ商品賣却ニ付テノ損失並ニ共同大海失ノ調査及計算ノ費用

(細川委員) 保險ヲ受ケタル金額ノ保險料トハ如何ナルモノヲ云フヤ

(本尾委員) 典船利金ノコトヲ云フナリ即チ保險ヲ受ケタルトハ

抵當チナシタル場合ニシテ金額ノ保險料トハ典船利金ノコトヲ云フナリ

(細川委員) 然ラハ典船利金ト改ムル方可ナリ

(本尾委員) 然リ

○本條ハ第五項「保險ヲ受ケタル金額ノ保險料」チ「典船利金」ニ改ム

○第九百八十五條

共同海失ノ處分ヲ行フ前ニハ成ルタケ船員會議ヲ開キ其會議ノ結果ハ之ヲ航海日記ニ記載ス可シ

○異議ナシ

○第九百八十六條

船舶及積荷ノ全部又ハ一部ヲ救得シタルトキハ積荷ノ金額船舶及運送費ノ半額ヲ以テ到達港其他航海ノ極地ニ於ケル價額ノ割

合ニ從ヒ共同海失ヲ共擔ス

○異議ナシ

○第九百八十七條

共同海失ニシテ關係者一方ノ過失ニ歸ス可キトキハ共擔ニ依テ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(鶴田委員) 共擔ヨリ他ニ辨償ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤ

(本尾委員) 然リ共擔金ヨリ尙ホ多ク出金セサルヘカラサルニ至ルヘシ即チ自己ノ過失ニ依テ海失ヲ生シタルトキハ共擔ノ外其過

失ノ點ニ於テ全部又ハ幾部ヲ負擔セシムルニ至ルヘシ

(細川委員) 假令ハ船長ノ過失ニ依テ海失ヲ生シタルモ荷主等ハ矢張共擔ノ責任ハ免ルルコトヲ得サルヤ

(本尾委員) 然リ尤モ荷主ハ更ニ船長ニ向テ損害賠償ヲ請求スルコトハ妨ケサルナリ

○第九百八十八條

共同海失ノ算定及配當ハ到達港其他航海中ノ極地ニ於テ之ヲ爲ス若シ爭論アルトキハ官ヨリ命セラレタル鑑定人ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

○異議ナシ

○第九百八十九條

船舶ノ軍用品及食料、乗組員ノ給料、所有品及旅客ノ旅荷物ハ共同海失ヲ負擔スルノ限ニ在ラス其損失ハ他ノ共擔義務アル物品ヲ以テ之ヲ負擔ス

○異議ナシ

○第九百九十條

損失及共擔額ハ其拋棄シ又ハ救得シタル物品ノ實價ニ從テ之ヲ算定ス但拋棄シタル貨物ハ其實價運送狀ニ記載スル價額ヨリ費

キトキハ其記載ノ價額ニ從ヒ辨償ス
運漕狀又ハ陳告ナク又甲板ノ下ニ積入レサル積荷ハ之ヲ辨償ス
ルコトナシ

○異議ナシ

○第九百九十一條

救得シタル船舶或ハ積荷後ニ喪失若クハ損害シタルトキ又ハ更
ニ海失若クハ救得ノ爲メ義務ヲ負擔シタルトキハ前ノ海失ニ對
スル共擔義務消滅セサル以上ハ其義務ノ割合ハ變更スルコトナ
シト雖モ後ノ喪失若クハ損害又ハ海失若クハ救得ノ要求ヲ扣除
シタル殘餘ノ價額ニ從ヒ前ノ海失ヲ算定ス可シ

(本尾委員) 本條及次條ハ未定ナリ何ントナレハロエスレル氏ヨ
リ追テ改案呈出ノ筈ナレハナリ

○本條及次條ハ改案呈出ノ後修正スルコトニ決ス

○第九百九十二條

海中ニ投シ又ハ其他拋棄シタル貨物ハ後ニ生シタル共同海失ヲ
共擔スルノ義務ナシ又船舶後ニ沈没シ或ハ廢物トナリタルトキ
ハ積荷ノ其船舶ニ對スル共擔義務消滅ス

○第九百九十三條

配當ノ後ニ於テ海中ニ投シタル貨物再ヒ其所有者ノ手ニ戻リタ
ルトキハ其所有者ハ救得費用ト其拋棄ノ爲メニ生シタル損害ノ
額トヲ扣除シテ前ニ受ケタル割前チ關係者ニ還スノ義務アリ

○異議ナシ

○第九百九十四條

故意ニ出テヌ又ハ獨リ船舶若クハ積荷ノ爲メニ生シタル損失及
費用ハ總テ之ヲ別箇海失トシ各其所有者ノ擔當スル所トス

○本條ハ擔當ヲ負擔ニ改ム

○第九百九十五條

水先案内料、挽船料、解氷費、税金手数料等及橋、帆又ハ機關ノ使用過度ナルカ爲ノニ生シタル船舶ノ損害等總テ通常及臨時ノ航海費用並ニ其損害ハ反對ノ慣習アルニ非サレハ獨リ之ヲ船舶ニ負擔セシム

○異議ナシ

○第九百九十六條

船舶ノ衝突ニ依リ又ハ爆發若クハ其他ノ原因ニ因リ船舶及積荷ニ加ヘタル損害ノ責ハ之ヲ起シタル者ニ歸ス但偶變又ハ双方ノ過失ニ依テ其災難ヲ生シタルトキハ雙方各其被リタル損害ヲ擔當ス

雙方ノ過失不同ナルカ或ハ災難ノ原因不明ナルトキハ公平ノ酌量ヲ以テ其損害ヲ分擔セシム

○本條ハ「原因ニ依リ」テ「原因ニ依リ」ニ「擔當」テ「負擔」ニ改ム

○第九百九十七條

海難ノ時乗組員ノ既ニ退去シ若クハ拋棄シタル船舶又ハ貨物ヲ救テ之ヲ保全シ又ハ其救援若クハ救給ニ付キ乗組員ヲ助ケテ其功ヲ奏シタル者ハ救濟費若クハ助力費ヲ要求スルコトヲ得可シ其額ハ危險ノ大小ト費用ト時間ト其救濟助力ノ難易安危トニ依リ裁判官ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム其救援シ又ハ拾得シタル物品ノ價額ノ三分一ヲ通例トシ其半額ヲ最上限トス

○異議ナシ

○第九百九十八條

海失其他ノ損害ノ爲ノ保險者ニ對スル要求ハ其損害共同海失ニ在テハ船舶ト積荷トノ保險額合計ノ百分一以上別個海失ニ在テ

ハ損害ヲ被リタル物件ノ保險額百分一以上ニ當ルトキニ非サレ
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

○異議ナシ

○第九百九十九條

海失無義務ノ條目アルトキハ保險者ハ總テ海失ノ責ヲ免ル但放
讓ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ放讓ト海失要
求トノ内被保險者ノ擇フ所ニ任ス

(委員長) 海失無義務ノ條目トアレトモ契約中ニ於テノ條目ヲ云
フヘシ故ニ契約中海失云々トセハ如何(之ニ決ス)

○本條ハ海失無義務ノ上ニ契約中ノ三字ヲ加ヘ「放讓」ヲ「委
棄」ニ改ム

○第七章 典船債約

○第一千條

商法二ノ二ノ二二三

典船債約ハ第九百三十六條ニ依リ定繫港外ニ在テ船舶若クハ積
荷ノ已ムヲ得サル需用ノ爲メ債主典船利金ヲ受ケテ航海中其抵
當トシタル物品ノ海上保險ヲ擔當スルトノ約束ヲ以テ船長之ヲ
取結フモノトス

許可書及典船債約書ニハ其債約ノ事實、目的、船名、航海並ニ
抵當物品及其價額ヲ明記ス可シ

典船債額其抵當物品ノ價額ニ超ユルトキハ債主ハ其過上額ニ利
息ヲ合セ若シ債權者ニ詐偽ノ意アリタルトキハ全債額ニ利息ヲ
合セテ如何ナル事情アルチ間ハス之ヲ取戻スコトヲ得但豫期ノ
利得ハ積荷ノ價額ニ算入スルコトヲ許サス

○本條ハ「擔當」ヲ「負擔」ニ改ム

○第一千一條

船舶運漕費及積荷ハ或ハ合シ或ハ個々ニ或ハ部分シ之ヲ抵當ト

スルコトヲ得但積荷ノミヲ抵當トスルハ特別ニ積荷ノ需用ニ充
ルトキニ限ル

船舶ノ抵當ハ自カラ其附屬品ト航過ノ終局ニ得ヘキ運漕賃トニ
及フモノトス

○異議ナシ

○第一千二條

同一ノ物品ヲ種々ノ需用ノ爲メ數度抵當トシタルトキハ後ノ要
求ハ前ノ要求ニ先ツモノトス

(周布委員) 本條ハ普通ニ反シ後ノ要求ヲ第一トスルハ如何

(鶴田委員) 船舶ニ於テハ海失ノ主義ニ基キ普通ニ反シ前者ヨリ
後者ヲ先トセリ何トナレハ後ノ要求ノ爲メニ其船舶ヲ保護スルコ
トヲ得兼テ前負債ノ用ニ供スラル、所アルヲ以テナリ

○第一千三條

商法二ノ二ノ二二四

典船價約金ハ需用ニ應シ數通又差圖證券ニ之ヲ作ルコトヲ得差
圖證券ニ作りタルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ讓渡スコトヲ得但裏書
人ハ唯元金支拂ノ責アルニ止マリ典船利金ハ明約ヲ以テ其實ヲ
引受ケタルニ非サレハ之ヲ支拂フノ義務ナシ

(委員長) 「讓渡スコトヲ得可シ」ヲ「移轉スルコトヲ得」ト爲
スヘシ(之ニ決ス)

○第一千四條

典船價並ニ利金ノ支拂ハ特約アルニ非サレハ船舶投儲シタル時
ヨリ八日內積荷ニ付テハ離揚シタル時ヨリ八日內ニ之ヲ要求ス
ルコトヲ得若シ此期限內ニ支拂ハサルトキハ典船物件ニ付キ賣
主ノ權利ヲ施行スルコトヲ得

典船シタル總テノ物件ハ其債主ニ對シ連帶責任アルモノトス

(細川委員) 物件カ連帶無限責任ヲ負フハ本條ノミナリ

(委員長) 「典船物件」ヲ「抵當物件」ニ「典船シタル」ヲ「抵當ト爲シタル」ニ改ムヘシ(之ニ決ス)

○第一千五條

航海ヲ變更シ又ハ商品ヲ他船ニ積換ユル等總テ危險ノ變更ヲ生シタルトキハ避ク可カラサル必要ニ起因シタルニ非サレハ債主海上危險ノ責ニ免ル

○異議ナシ

○第一千六條

航海中海上危險ノ生シタルカ爲メニ抵當物品全ク喪失シタルトキハ典船債ノ支拂ヲ要求スルヲ得ス抵當物件ノ損害ヲ受ケ又一部分喪失シタルトキハ其殘ル所ノ價額マテヲ限トシ之ヲ要求スルコトヲ得但海失費及救濟費ヲ扣除ス可シ

右兩場合ニ於テ海失ノ辨償額ハ典船債主ノ所得ニ歸ス

○本條ハ「物品」ヲ「物件」ニ改ム

于時正午第十二時閉會

商法編纂會議筆記

第二讀會第三十二回 明治二十年四月十九日

欠席 實作委員

○午前

○第八章 海上保險

○第一款 保險契約ノ取結

○第一千七條

凡ソ航海ノ危險ニ當ル正當ノ財産上ノ利益ニ付テハ航海ノ全部
又ハ其一部ニ係リ平時ト戰時トヲ問ハス航海前又ハ航海中ニ於
テ保險ヲ受クルコトヲ得

○本條ハ「正當ノ」ヲ「上」ノ下ニ移ス

○第一千八條

保險ヲ受クルコトヲ得ル者ハ殊ニ船舶及附屬品、運送貨、乘客

賃、積荷、積荷ノ賣却益金、仲買手数料、仲立人手数料、典船
債ニ係ル要求、海失ニ係ル要求其他船舶債主ノ要求並ニ保險者
ノ利益トス但或ハ合シ或ハ個々ニ或ハ部分シテ保險ヲ受クルコ
トヲ得

(細川委員) 海失ニ係ル要求ハ過去ノ事即チ既ニ生シタル要求ヲ
云フカ如シ

(本尾委員) 否將來ノ事チ云フ即チ海失アリタルトキ之ヲ償フヘ
キ額ニ付キ保險ヲ受クルヲ云フナリ

出席 岡 布 委 員

○本條ハ海失ニ係ル要求トアルハ過去ナルヤ未來ナルヤヲ質問
スルコトニ決ス

○第一千九條

船舶ノ保險價額ハ危險ノ始マル時及地ニ於テ船舶ノ有スル價額

トス

○異議ナシ

○第一千十條

船舶ノ危險ハ積荷又ハ底荷ノ積入ヲ始ムルトキニ始マリ其騰揚
ノ終リタル時又ハ不當ノ延滞ナクシテ終リ得可キトキニ終ル但
特約アルトキハ此限ニ在ラス

○異議ナシ

○第一千十一條

典船債及海失ニ係ル要求ハ其抵當トシ或ハ共擔義務アル物品ニ
付テノミ保險ヲ受クルコトヲ得

○異議ナシ

○第一千十二條

保險契約ヲ取結ヒタル後戰爭起リ又ハ政府ノ處分ニ出ツル危險

シタルトキハ保險料ヲ相當ニ増加スルコトヲ豫メ定メ又ハ其時
約定スルニ非サレハ双方契約ヲ解クノ權アリ
解約ノ場合ニ於テハ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ還付ス可シ

○異議ナシ

○第二款 保險者及被保險者ノ權利及義務

○第一千十三條

被保險者ハ危險ノ始マル前ニ航海ヲ止メタルトキハ保險額百分
ノ五厘ヲ賠償トシテ契約ヲ解クコトヲ得

(岸本委員) 百分ノ五厘ト云フハ豫當ナラヌ原案ニ復スル方可ナ
リ

(本尾委員) 原文ニ於テハ百分ノ五厘トアルナリ

○第一千十四條

保險者ハ暴風、難破、坐礁、水流、衝突投荷、火災、爆裂、盜

難、劫掠、已テ得サルニ出タル航海、線路又ハ船舶ノ變更、乗
組員ノ不正、過失等總テ海上危險ニ依テ生シタル損失ヲ負擔ス
但契約上例外ヲ立テタルモノハ此限ニ在ラス

保險者ハ奪掠、宣戰、反槍、封港、鎖港、捕掌等ノ如キ總テ戰
争其他政府ノ處置ニ出ル危險ハ明約ヲ以テ其實ヲ擔當シタルニ
非サレハ之ニ任スルコトナシ

○異議ナシ

○第一千十五條

保險者ハ水先案内料、挽船料、船舶又ハ積荷ヨリ支拂フ可キ手
敷料及諸稅老朽腐壞又ハ虫蝕ニ因テ生シタル損害、通常ノ使用
ニ因テ生シタル耗損、船長又ハ船員ノ行爲ニ起因スル船舶所有
者ノ責任、航海不能力機裝又ハ乗組員ノ不足成規上ノ書類ノ不
備ニ依テ生シタル損害ヲ負擔セス

○異議ナシ

○第一千十六條

損害ヲ賠償ス可キ保險者ノ義務ハ被保險者ノ該損害ニ付テ船長又ハ其他ノ者ニ對シ賠償要求ノ權アルカ爲メニ消滅スルコトナシ

○異議ナシ

○第一千十七條

契約ニ定メタル期限外若クハ到達港外ニ航海ヲ延長スルトキハ相應ニ保險料ヲ増加ス可シ但之ヲ短縮スルトキハ減少スルコトナシ

○異議ナシ

○第一千十八條

乗客實ノ保險ヲ爲シタルトキハ被保險者ニ於テ航海ヲ延長、乘

客ノ船移シ、避難港ニ於ケル乗客ノ賄料、船ヲ以テスル乗客ノ運漕、糧食ノ損失損害等總テ海難ノ爲メニ生シタル乗客運漕過上額ノ辨償ヲ要求スルノ權アルモノトス

(細川委員) 「過上」ハ「増加」ニ改ムヘシ(之ニ決ス)

○第一千十九條

通常ノ運漕費又ハ乗客ヲ増加シテ積荷ヲクハ乗客旅荷物ノ危険ヲ擔當シタルトキハ保險ノ原則ニ依ル可シ

○異議ナシ

○第三款 委棄

○第一千二十條

委棄ハ全保險額ノ支拂ヲ受ケテ其保險シタル物件ヲ保險者ニ拋與スルモノトス

委棄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第一 船舶沈没シ若クハ破砕シ若クハ行方知レヌ若クハ官廳ヲ以テ廢物トシタル時

第二 船舶奪掠セラレ又ハ政府ノ處分ヲ因リ抑留セラレタル時
第三 價額ノ四分三ニ超ユル損失アリタル時

委棄ハ一部分ニ於テシ又ハ制限ヲ立テテ之ヲ爲スコトヲ許サス且之ヲ取消スコトヲ得ス

○異議ナシ

○第一千二十一條

船舶到達港ニ達セス且出航後又ハ其船舶ニ係ル最後ノ番信ヲ得タルヨリ十ヶ月其沿岸航海ニ在テハ六ヶ月經過シタルトキハ其船舶行方知レサルモノト看做ス可シ

期限ヲ定メテ保險ヲ受ケサル場合ニ於テ前項ノ期限經過シタルトキハ其船舶保險期限内ニ喪失シタルモノト推測ス可シ

○異議ナシ

○第一千二十二條

坐礁ノ船舶ハ之ヲ引卸シ修覆ヲ加ヘテ到達港マテ航海ヲナスコトヲ得可クシテ保險者其必要ノ費用ヲ前貸スルトキハ廢物トシテ委棄スルコトヲ得ス但坐礁ノ爲メニ生シタル費用及海失ニ係ル要求權ハ被保險者之ヲ失フコトナシ

○異議ナシ

○第一千二十三條

廢物ト認メラレタル船舶ノ積荷ヲ委棄シ得タル船長之ヲ到達港ニ送達スルトキ他船ヲ得サルトキニ限ル可シ但船長他船ヲ借入レタルトキハ海失及積荷ノ救濟、積換、倉入、運賃增加ニ因テ生シタル費用ハ保險者之ヲ負擔ス可シ

○異議ナシ

○第一千二十四條

被保險者ハ變故ヲ知得タル日又ハ第一千二十一條ニ定メタル期限
經過シタル日ヨリ三日内ニ委棄ノ理由タル事實ヲ保險者ニ通知
シ六ヶ月内ニ委棄ヲ陳告スルノ義務アリ若シ被保險者此期限ヲ
愆マリタルトキハ唯保險契約ヨリ生スル尋常ノ要求權ヲ有スル
ノミ

○異議ナシ

○第一千二十五條

保險者ハ別ニ契約ノ期限アルニ非サレハ委棄ヲ陳告シタル後三
ヶ月内ニ保險額ヲ支拂フ可シ但委棄ノ理由ニ供スル書類ヲ受取
ラス且委棄シタル物品ノ負擔スル他ノ保險典船價約、登記シタ
ル要求及其他ノ要求ニ係ル通知ヲ得サル以前ニ在テハ之ヲ仕拂
フコトヲ要セス

右委棄ノ理由ニ供スル書類ニ對シテハ反對證ヲ立ツルコトヲ得
ス

○異議ナシ

○第一千二十六條

委棄ノ陳告詐欺ニ出テタルトキハ被保險者ハ其保險上ノ權利ヲ
失ヒ其委棄シタル物品ノ負擔スル要求ニ自ラ當ル可シ

○異議ナシ

○第一千二十七條

委棄ノ承諾又ハ有効ナル委棄陳告ニ依リ其委棄物件ニ係ル被保
險者ノ權利ハ保險者ニ移轉ス船舶ノ委棄ニハ救得シタル積荷ノ
船賃ヲ含有ス但其運漕賃ノ負擔スル義務及費用ハ此限ニ在ラス

○異議ナシ

○第一千二十八條

被保險者ハ委棄ヲ陳告シタル後ト雖トモ保險物品ノ救済又ハ回復ノ爲メ及一層ノ損害ヲ避クル爲メニ成ル可ク盡力スルノ義務アリ但保險者ハ其救得シタル價額ヲ限トシテ右ノ爲メニ用ヒタル費ヲ負擔ス可シ

○本條ハ「品」ヲ「件」ニ復ス

○第一千二十九條

奪掠又ハ政府ノ抑留ニ遇フタル場合ニ於テ委棄ノ事實ヲ保險者ニ通知シタル後六ヶ月内ニ裁判所ノ判決又ハ沒收ニ至ラサルトキ此期限後ニ委棄ヲ陳告スルコトヲ得其奪掠ノ場合ニ於テハ已テ得サルトキニ限り被保險者豫メ通知ヲ爲サス且保險者ノ委託ナクシテ買戻ヲ爲スコトヲ得但此買戻ヲ以テ自己ノ計算トスルト否トハ保險者ノ隨意トス

(細川委員) 裁判所トハ普通裁判所ト異ナルヘシ

(本尾委員) 然リ特別法ニテ規定セラルヘキモノナルヘシ

○第一千三十條

一タビ陳告シタル委棄ノ効力ハ他日船舶ノ救得又ハ歸航ノ爲メニ變スルコトナシ

○異議ナシ

○第九章 期滿免除

○第一千三十一條

船舶債主ノ要求權並ニ典船舶、海失、救済ノ爲メノ要求權ハ假令船舶所有者、船長又ハ船員ノ一身ニ對スルモノタリトモ其權ヲ施行シ得可キ日ヨリ起算シ一ケ年ヲ以テ期滿免除トス但登記シタル權ハ登記ノ日ヨリ起算シ三ケ年ヲ以テ期滿免除トス

○異議ナシ

○第一千三十二條

損失損害ニ係リ船長及保險者ニ對スル要求權ハ故障ナク積荷ヲ受取り運漕管ヲ支拂フタル時ヲ以テ消滅シ又海失或ハ救済ニ係ル要求權ハ故障ナク積荷ヲ引渡シ其運漕管ヲ受取りタル時ヲ以テ消滅ス

其故障ハ積荷ヲ受取り又ハ引渡シタル時ヨリ二十四時内ニ申立ルニ非サレハ無効トス

○異議ナシ

○第一千三十三條

委棄ニ係ル訴權ハ第一千二十四條ニ定メタル期限ヲ以テ期滿免除トス

○異議ナシ

正午十二時中止

午後一時開會

○第四編 商事ニ係ル争訟

○第一章 仲裁人

○第一千百十九條

商事ニ係ル争訟ハ普通ノ訴訟手續ニ限り期限ヲ短縮シ又必要ナル場合ニ於テハ商事鑑定人ヲ立會ハシメ通常裁判所之ヲ判決ス

○異議ナシ

○第一千百二十條

相場會所ニ於テ取結タル取引ニ係ル争訟ハ相場會所規定ニ從ヒ仲裁人判人之ヲ判決ス其他商事ニ係ル争訟ハ法律、商ヒノ慣習契約又ハ官權ヲ以テ仲裁人判ニ付スルコトヲ得

(岸本委員) 官權ハ職權ナルヘシ

○第一千百二十一條

仲裁契約ハ書面ヲ以テシ又ハ裁判所ニ於テ取結ヒ雙方ノ氏名爭

訟ノ事件及仲裁々判人ノ氏名ヲ之ニ掲ク可シ

○異議ナシ

○第千百二十二條

所管裁判官ハ自己ノ裁判ニ付セラレタル争訟事件ニシテ専ラ商業上若クハ營業上ノ性質ヲ有シ又ハ専ラ權宜ニ依テ判ス可キモノナルトキハ官權ヲ以テ之ヲ仲裁々判ニ付スルコトヲ得

○異議ナシ

○第千百二十三條

別ニ定ムル所アルニ非サレハ双方各一名ノ仲裁々判人ヲ撰任スルコトヲ得若シ一方ノ者他ノ一方ノ撰任シタル旨ノ通知ヲ得タルヨリ三日内ニ撰任セサルトキハ他ノ一方ニテ他ノ一名ヲ撰任スルコトヲ得

數名ノ仲裁々判人ノ間可否決セサルトキハ上席人一名ヲ任シ

其決スル所ニ從フ

○異議ナシ

○第千百二十四條

仲裁々判ノ判決ハ裁判人撰任ノ日ヨリ三ヶ月内ニ申渡シ其申渡書ヲ双方ニ交付シ且判然タル條理及公ケノ秩序ニ悖ルコトナク又法律ニ背馳スルコトナキトキニ限り有効トス

○異議ナシ

○第千百二十五條

仲裁々判ノ判決ハ確定裁判ノ効力ヲ有シ之ヲ双方ニ申渡シタル後三日ヲ經テ裁判所ノ執行ニ付スルコトヲ得但其効力ニ異議ヲ唱フルノ權ヲ失ハシムルモノニ非ス

異議ハ右申渡ノ日附ヨリ一ヶ月内ニ申立ツ可シ

(本尾委員) 異議者ナク一ヶ月ヲ經過セシ後ニ至リ確定裁判トナ

ルヲ云フ

(細川委員) 確定裁判トハ或ハ裁判所ノ爲シタル裁判ト同一ナリト云フノ意味ニハアラサルカ

(岸本委員) 然ルトキハ大ニ理論ニ適スルナリ

○第一千二百二十六條

仲裁裁判人ノ職ハ商人ノ榮譽職トス其争訟ニ直接又ハ間接ノ關係アル者ハ仲裁々判人トナルコトヲ得ス

○異議ナシ

○第二章 裁判執行

○第一千二百二十七條

商事ノ裁判判決ニ對スル控訴提出ノ期限ハ其判決ヲ双方ニ申渡シタルヨリ十日間トス

○異議ナシ

○第一千二百二十八條

負債者保證ヲ立テヌ又ハ負フ所ノ金額或ハ物件ヲ裁判ニ預ケサルトキハ債主ニ著大ノ損害ヲ被ラシメサラシム爲メ債主ノ申立ニ依リ判決ノ假執行ヲ爲スコトヲ得

○異議ナシ

○第一千二百二十九條

外國裁判所ノ判決及ヒ外國ニテ取結ヒタル契約ヲ日本裁判所ニテ執行スルハ日本國ノ公ケノ秩序ニ背馳セサルトキニ限ル

○異議ナシ

○第一千百三十條

負債者失踪セントスルトキ又ハ其財産ヲ浪費、隠匿シ若クハ外國ニ送出スルトキ又ハ負債者ニ對スル判決ヲ外國ニテ執行ス可キトキハ勿論其他ノ場合ニ於テモ債主ノ申立ニ依リ其擔當ヲ保

スル爲ノ負債者ノ財産ヲ差押ヘ必要ノトキハ其身体ヲ拘留スル
コトヲ得

○異議ナシ

○第千百三十一條

差押又ハ拘留ノ時日ハ其目的ヲ達スル迄ヲ限トス但拘留ハ一年
ヲ超ユルコトヲ得ス

○異議ナシ

○第千百三十二條

差押又ハ拘留ノ令狀ニハ未タ訴訟ヲ起ササル場合ニ於テハ之ヲ
起ス期限ヲ揭ク若シ之ヲ犯ストキハ差押若クハ拘留ヲ止ム

○異議ナシ

○第千百三十三條

債主ハ必要ナル場合ニ於テハ差押又ハ拘留ノ費用殊ニ拘留シタ

ル負債者ノ賄料ヲ假拂ス可シ

○異議ナシ

午后 散會

昭和十四年九月二十六日寫了司法省法律調查會藏書

日本學術振興會

日本學術振興會

